

二〇二一年度 茨城キリスト教大学一般選抜入学試験 一期

国語 (1期)

(解答は解答用紙に記入すること)

I 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

^{注1}すが
菅官房長官が「令和」と書かれた額を掲げている写真が有名になり、報道によれば、あの姿から官房長官が女子高生たちのあいだで「令和おじさん」という名前で人気者になっているとのことだが、それはともかくとして、あの額では《へ》の下に、点と《p》を組みあわせた字形が書かれていた。

しかし世間には A 人もいて、発表からまだ一時間もたっていない段階で、「あの字はまちがっている、《p》の上は短い横線でなければならぬのに、政府が発表したものは点になっている」と私にメールで連絡してきてくれた方がいた。ほかにも、世間にはきつと「X」^x「あの字はおかしい、「令」は《へ》の下が《p》ではなく《マ》の形でないといけない」と考えた方もたくさんおられたことだろう。

ことは元号に使われる漢字だから、その「正しい字形」をめぐってさまざまな議論が出るのも当然だとは思いますが、詳しい考証はあとにして、まずはくつか「令」の字形を見てみよう。

次のページに、『康熙字典』(一七一九年成書)に見える「令」を掲げた。『康熙字典』とは名君の誉れ高い清朝第四代皇帝康熙帝の命令で作られた大きな字典である。康熙帝は学問好きの皇帝であり、その皇帝から発せられた字書編纂の勅命を受けて、^{注2}張玉書や陳廷敬など三十数名の学者が足かけ七年の時間をかけて完成したが、しかし最初にできたものには引用文献の書名や篇名、あるいは引用文の断句などに多くの誤りがあった(この誤りは、^{注3}ちに王引之が著した『字典考証』によってすべて修正されている)。B それは皇帝の命令で編纂されたものだから最も権威のある字書と認識され、内容に関する批判はいっさい許されず、成書した直後から「完璧な字書」として高く評価された。

そんなわけで、漢字の形や音、意味はすべて『康熙字典』の記述がもつとも正しいと考えられてきた。その認識がさらに日本や朝鮮などにも伝わり、近年にいたるまで『康熙字典』が東アジア全体で漢字の規範を示すもつとも権威的な字典とされてきた。

『康熙字典』には清の宮殿で印刷されたものや、江戸時代の和刻本など何種類かの版本があり、^{注4}字形が版本によって微妙に異なることもあるが、すべて明代の木版印刷で広く使われていた「明朝体」で印刷されている。



新元号の発表
(写真提供=朝日新聞社)



『康熙字典』「令」

C 日本で明治時代に金属活字による印刷がはじまった時にも、金属活字は原則的に『康熙字典』に載せられている明朝体の字形をモデルとして作られた。

上の左側の図版は戦前の日本の活字社会や大きな印刷会社で使われていた字形を文字ごとに一覧表にした『明朝体活字字形一覽』（文化庁国語課編）という労作だが、見ての通りすべての漢字が『康熙字典』（いちばん左にある形）と同じ形になっていて、「令」についても、『康熙字典』と同じく、どこの会社の活字でもすべて下部が《口》の形に設計されている。

戦前の日本で印刷された漢字はすべて、このように『康熙字典』所載の明朝体の形になっていた。この明朝体活字が戦後もさまざまな印刷に広く使われ、さらに技術の進歩によって活版印刷から写真植字、さらにはコンピュータによる印刷に代わっても、文字は特定の場合をのぞいてほとんど「明朝体」で印刷された。いまのパソコンに搭載されている各種の「◎◎明朝」というフォントも、いうまでもなく金属活字の明朝体をモデルとしたものにほかならない。

現在の日本で出版されている国語辞典や漢字辞典も、どこの会社のものであれ、ほぼすべて明朝体で印刷されているから、「令」は下が《口》になっている形で辞典に掲載されている。しかし小学校の漢字教育だけは、ちよつと事情がちがう。D、小学校の教科書は明朝体ではなく、手書きで書く漢字の形にあわせて設計された、「教科書楷書」という書体で印刷されているからだ。

小学校で使われる教科書や、あるいは小学生が使うように編集された学習用漢字字典では、「令」は次ページの図版のように下が《マ》の字形になっている。「令」は小学校四年生の教科書に出る漢字で、同じく四年時に「冷」も出てくるが、「冷」の右にある《令》も、もちろん下が《マ》の形になっている。

しかしこうして「令」や「冷」を《マ》の形で学んだ子どもが中学校に入ると、中学校の教科書では明朝体が使われているので、下が《口》になった「令」や「冷」と出あうことになる。日本の子どもたちが学ぶ漢字の形は、小学校と中学校ではこのようになるとなっているというのが現実なのだ。

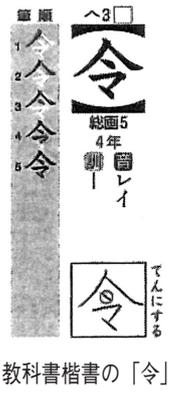
Y
これが、「令」の下が《口》になったり《マ》になったりすることのタネ明かしである。E 「令」の下が《口》であっても《マ》であっても、

それは印刷に使われる漢字の書体がちがうことによる結果であって、文字としてはどちらも同じなのである。

しかし世間ではなかなかそのことが理解されず、《口》と《マ》のどちらが「正しい」とかという議論がしばしば起こる。

これを考えるために、実際に中国や日本で過去に書かれた「令」の形を調べてみると、次ページの図版のように、どちらも同じくらいたくさん使わ

『明朝体活字字形一覽』



「令」の形

れている。そしてこれが肝腎なことなのだが、これらはすべて「令」という正しい漢字なのである。問題のポイントは、二つの「令」の見かけ上のちがいは、単にデザインの差にすぎない、ということにある。

世間には、漢字の書き取りの試験で「はねる・はねない」など筆画の F 差異にこだわって採点する先生や指導者がいるようだ。しかしそれは現在の印刷物だけしか見ていない G 見解であって、その先生は手書き字形と印刷字形が別のものだということをまったく理解しておらず、^{注5} 仄聞するところでは、「辞書に印刷されているのが漢字の正しい形だ」などと、とんでもない指導をしている先生もいるらしい。

中国でも日本でも、昔からいまままで、漢字の歴史を通じて、印刷される通りに漢字を書く、などということは一度もなかった。 H と主張する先生

書いているか?と問えばよい。印刷物に使われる明朝体の通りに手書きで漢字を書いている人など、世間には一人もいないと私は断言する。

特に学校での漢字書き取りをめぐる議論においては、手書きは手書き、印刷は印刷、まったくちがうそれぞれの状況において漢字が使われていることを、もつともつと認識する必要がある。そしてそのことは、^{注6} 「常用漢字表」に附載される「デザイン差」に関する記述を見れば一目瞭然なのだが、小中学校で国語の授業を担当される先生のなかには、それを見たことがないどころか、その存在すら知らない方もたくさんおられるようだ。

(阿辻哲次『日本人のための漢字入門』より)

- 注1 菅官房長官 …… この文章が書かれた当時、官房長官だった菅義偉^{よしひで}氏をさす。
- 注2 清朝 …… 一七世紀から二〇世紀初頭まで中国を治めた王朝。
- 注3 断句 …… 文章に区切りを入れること。
- 注4 和刻本 …… 日本で新たに複製した外国(ここでは中国)の版本。
- 注5 仄聞 …… 直接ではなく、間接的に少し聞くこと。
- 注6 常用漢字表 …… 一般の社会生活で使用する目安として国が定めた二一三六字の漢字リスト。

問一 空欄 A } G に入れるのに最もふさわしい言葉を、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

| | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------|---|-------|---|-------|
| A | ア | ぬかりない | イ | あざとい | ウ | めざとい | エ | ずるい |
| B | ア | だが | イ | そして | ウ | そのため | エ | また |
| C | ア | 逆に | イ | そして | ウ | しかし | エ | というのは |
| D | ア | そのため | イ | しかし | ウ | というのは | エ | また |
| E | ア | しかし | イ | その上 | ウ | 逆に | エ | だから |
| F | ア | 重要な | イ | 微細な | ウ | 教育的な | エ | 歴史的な |
| G | ア | 浅薄な | イ | 曖昧な | ウ | 繊細な | エ | 不可能な |

問二 次の①～④を、「令」の字形の違いによって大きく二つに分けるとしたら、どのように分けられますか。最もふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

| | |
|--|---------------------------------------|
| <p>① 『康熙字典』での字形</p> <p>③ 小学校の教科書での字形</p> | <p>② 明朝体での字形</p> <p>④ 中学校の教科書での字形</p> |
|--|---------------------------------------|

- ア [①]と[②・③・④]
- イ [①・②]と[③・④]
- ウ [①・④]と[②・③]
- エ [①・②・④]と[③]

問三 傍線部Xの指摘について、それに対する筆者の考えとして最もふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 官房長官が掲げた字は厳密にはまちがっているが、細かいことなので気にする必要はない。
- イ 官房長官が掲げた字はまちがっておらず、むしろ「おかしい」と指摘した人の字がまちがっている。
- ウ 官房長官が掲げた字も、「おかしい」と指摘した人の字も、どちらも正しい。
- エ 歴史、教育などさまざまな要因が関係するので、簡単にまちがっているとも正しいとも言えない。

問四 傍線部Yの「これ」とは何ですか。最もふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 小学校と中学校とで、漢字教育の基本的理念が異なること。
- イ 小学校と中学校とで、正しい漢字の形が違うこと。
- ウ 同じ漢字でも、明朝体や教科書楷書といった書体で形が違うこと。
- エ 同じ漢字でも、印刷された文字と手書きの文字では形が違うこと。

問五 文章で述べられているような漢字の字形のちがいは、つまり何だと筆者は言っていますか。文章中から六字で抜き出しなさい。

問六 空欄 H に入れるのに最もふさわしい文を、文章中から二十五字以内で抜き出しなさい。

問七 次の1～7の文について、本文の内容にふさわしいものには○、そうでないものには×をつけなさい。

- 1 字形の多様性は、漢字ならではの特徴であり、大切に残していく必要がある。
- 2 ゆたかな言語表現のためには、漢字の字形にとらわれすぎるのはよくない。
- 3 小学校の教科書と中学校の教科書で字形が異なるのは混乱をまねくので、統一すべきだ。
- 4 学校の教員は、漢字指導の際、手書きの漢字と印刷された漢字とで字形が違うことを認識すべきだ。
- 5 明治時代に金属活字による印刷が始まって以降、印刷物に明朝体が使われるようになった。
- 6 『康熙字典』は、中国のみならず日本を含む東アジアにおいて漢字の規範を示すものとされた。
- 7 かつて正しくないとされた手書きの漢字の字形も、現在では正しいとされている。

II

問一 次の①～⑤の傍線部の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- ① 昨日の試合は、我々のチームが土壇場で逆転勝利した。
- ② 彼女の崇高な態度に尊敬の念を禁じ得なかった。
- ③ この大銀行は、多くの会社を傘下に収めている。
- ④ この絵は決して凡庸な作品とは言えない。
- ⑤ 祖母は、初孫のために産着を仕立てた。

問二 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- ① 一国でも多くの国にこの条約をヒジュンしてもらいたい。
- ② 彼は、理由もなく会社をカイコされてしまった。
- ③ 悪貨は良貨をクチクするというのは本当だ。
- ④ この小説は、大衆にゲイゴウした作品だ。
- ⑤ 親友とキョウキンを開いて語り合った。

問三 次の①～⑤の四字熟語中の□に当てはまる漢字を、それぞれa～dの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|------|-----|-----|-----|-----|
| ① | 情状□量 | a 尺 | b 酌 | c 积 | d 借 |
| ② | 有□転変 | a 意 | b 異 | c 移 | d 為 |
| ③ | 当意□妙 | a 速 | b 則 | c 促 | d 即 |

- ④ 理□曲直 a 秘 b 否 c 非 d 避
- ⑤ 感□無量 a 慨 b 涯 c 蓋 d 外

問四 次の①～⑤の慣用句（傍線部）中の漢字が正しければ○、間違っていれば正しい漢字一字を書きなさい。

- ① 君の描く絵が売れなくても、焦っては駄目だよ。待てば海路の日和ありと言うじゃないか。
- ② 彼は社長の激鱗に触れたため、左遷されてしまった。
- ③ 今回の日本国内における油田開発は破天候の試みとなるだろう。
- ④ 同じ大学を目指す友と接磋琢磨して受験勉強に励んだ。
- ⑤ 彼女は怪我の巧名で新薬を開発することができた。

問五 次の①～⑤の意味を表す語句として最もふさわしいものを、それぞれa～dの中から選び、記号で答えなさい。

- ① 意味や趣旨を押し広げて考えたり、より詳しく説明したりすること。
a 敷衍 b 増補 c 拡幅 d 帰納
- ② 芸術美などを自分のものとして受け入れ、味わい楽しむこと。
a 需要 b 享受 c 謳歌 d 受諾
- ③ 対立・矛盾する二つのものが互いに相手に勝とうとして争うこと。
a 相克 b 相生 c 紛糾 d 糾弾
- ④ 心理的に追い込み、自由を奪うこと。
a 訴追 b 呪縛 c 拘留 d 緊迫
- ⑤ 生活ぶりが地味で質素であること。
a つまびらか b つつがない c つましい d つつしみ深い

国語解答用紙(1期)

I

| | |
|---|---|
| F | A |
| イ | ウ |
| G | B |
| ア | ア |
| | C |
| | イ |
| | D |
| | ウ |
| | E |
| | エ |

問二
エ

問三
ウ

問四
ウ

小計

受験番号

総計

II

| | |
|---|---|
| の | 「 |
| 正 | 辞 |
| し | 書 |
| い | に |
| 形 | 印 |
| だ | 刷 |
| 「 | さ |
| | れ |
| | て |
| | い |
| | る |
| | の |
| | が |
| | 漢 |
| | 字 |

25字

| | |
|---|---|
| 6 | 1 |
| ○ | × |
| 7 | 2 |
| × | × |
| | 3 |
| | × |
| | 4 |
| | ○ |
| | 5 |
| | × |

小計

小計

小計

小計

| | | | | |
|----|----|----|----|------|
| 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 |
| ① | ① | ① | ① | ① |
| a | ○ | b | 批准 | どたんば |
| ② | ② | ② | ② | ② |
| b | 逆 | d | 解雇 | すうこう |
| ③ | ③ | ③ | ③ | ③ |
| a | 荒 | d | 駆逐 | さんか |
| ④ | ④ | ④ | ④ | ④ |
| b | 切 | c | 迎合 | ぼんよう |
| ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ |
| c | 功 | a | 胸襟 | うぶぎ |
| 小計 | 小計 | 小計 | 小計 | 小計 |